

2 各学年

	重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
1 学 年	①自己のあり方、生き方を決定できる主体的な人間を育てる ②課題解決のために協働し、多様な他者と共生する人間を育てる ③自ら学び続け、その知識・情報を活用できる人間を育てる	授業や学校・学年行事を通じてコミュニケーション能力を身につけるとともに、他者と協力しながら工夫を重ね、世界や地域の課題を解決できる人間を育てる。	元気な挨拶を行うことなどを通して、活気のある学校生活を送らせる。	B	B	
			きまりと時間を守ることの意義をふまえさせ、規律正しい高校生活を送らせる。	B		
		学習習慣を早期に確立し継続することで、確かな知識とその活用能力を身につけ、多様な社会の要請に応えられる人間を育てる。	授業の大切さを指導し、出席率99%以上をめざす。	D	C	B
			自宅学習4時間以上の習慣を定着させる。	C		
			学習到達度確認問題（小テスト）により基礎・基本の定着を図る。	B		
			進研模試において、偏差値58以上の生徒数が60%以上を目指す。	D		
自己と自己を取り巻く世界を知り、他者と学び合うことにより多様な人間のありかたを知り、自己のあり方を主体的に決定し、その実現に向けて努力し続ける人間を育てる。	探究の時間等を有効活用し、自己を見つめ、自己を確立する教育やキャリア教育を年間を通じて計画的に実施する。	A	A			
生徒理解を深めるとともに、学年全体で情報を共有し、保護者との連携を図る。	個別面談を3回、三者面談を2回、計画的に実施する。	B	B			
2 学 年	①自己のあり方、生き方を決定できる主体的な人間を育てる。 ②課題解決のために協働し、多様な他者と共生する人間を育てる。 ③自ら学び続け、その知識・情報を活用できる人間を育てる。	他者と協力して物事に取り組む姿勢を身につけさせ、皆で頑張る雰囲気醸成する。	学校行事や生徒会活動において、中心学年としての役割を果たし、他者と協力して物事に取り組む姿勢を育む。	B	B	
			集団内の一員である意識を持たせ、身の回りの整理整頓を徹底させ、品位ある服装・態度を心掛けさせる。	B		
		授業第一主義により、生徒の学力を向上を図る。	授業第一の態度を育て、出席率99%以上、年間皆勤者30名以上を目指す。	C	B	B
			自宅学習平日4時間以上の習慣を徹底させる。	B		
			学習到達度確認問題（小テスト）により基礎・基本の定着を図るとともに、発展的な内容についても理解させる。	B		
			積極的に英語検定に挑戦させ、2級40名以上の合格を目指す。	A		
			進研模試において、 ①平均偏差値58以上をめざす。 ②偏差値58以上の生徒が50人以上になることをめざす。	B		
		自己の高校卒業後の進路を意識させ、意義ある高校生活を送る動機付けとする。	進路研究(学問研究・大学研究等)を含む進路学習を年間にわたって系統的に行う。	B	B	
生徒理解を深めるとともに、学年全体で情報を共有し、保護者との連携を図る。	個別面談を年3回、三者面談を2回、適切なねらいのもとで実施する。	A	A			

	重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
3 学 年	①自己のあり方、生き方を決定できる主体的な人間を育てる ②課題解決のために協働し、多様な他者と共生する人間を育てる ③自ら学び続け、その知識・情報を活用できる人間を育てる	学力を向上させ、難関大を含む国公立大学等、自らの進路希望を達成させる。	生徒のやる気を喚起し、学力向上に資する授業を実践する。	B	B	B
			授業重視の態度を育て、出席率99%以上、年間皆勤者20名以上を目指す。	C		
			学習到達度確認問題（小テスト）により基礎・基本の定着を図るとともに、発展的な内容についても理解させる。	B		
			登校学習会、休日講習会、模擬試験、自習会、学習合宿などを実施し、基礎力・応用力を養成する。	B		
			大学進学率90%以上を達成する。	B		
	生徒理解を深めるとともに、学年全体で情報を共有し、保護者との連携を図る。	個別面談、三者面談を適切なねらいのもとで実施する。	A	A		
	生徒理解を深め、生徒の進路選択の手助けをする。	個別面談及び進路に関する検討会を、明確なねらいのもとで実施し、生徒の進路選択の手助けをする。	B	B		